



2012年10月

No.30

日豪協会

Contents

- 広島日豪協会2012年度総会開催 ……1
- 広島赤十字・原爆病院への
慰問コンサート ……2
- オーストラリア・デーを祝う会 ……3
- オーストラリアのラジオを自宅で聴こう! ……3
- 平和の風に白帆を張って ……4
- ニュースダイジェスト 広がれ豪(GO)! ……4
- 事務局からのお願い ……4

広島日豪協会2012年度総会開催

広島日豪協会の2012年度の年次総会が、7月18日(水)に開催されました。会場のANAクラウンプラザホテル広島の会議室には、会員の方々約60名が出席しました。総会では永野会長が議長として会議を進め、「2011年度事業報告・収支報告」が事務局から報告され、続いて「2012年度事業計画(案)ならびに収支計画(案)」についてが諮られ、2つの議案ともに満場一致で承認されました。さらに、理事の山本一隆・調子寛樹・万徳良男3氏の退任に伴い、岡谷義則理事・青山裕大理事・和田行司理事に、また奥原征一郎参与の退任に伴い、神津善三朗氏にそれぞれ就任していただく役員人事(案)も満場一致で承認されました。青山理事は理事会の互選で副会長に就任されました。

総会後の懇親会は、来賓の在大阪オーストラリア総領事館インベストメントマネジャーのシンディー・リネバーグさんが乾杯の発声をして、広島日豪協会2012年度の活動のス

タートを切りました。

また懇親会では、広島を拠点に活躍中の、日本でも珍しいとされる楽器「クラビオーラ(鍵盤ハーモニカ)」奏者で折重由美子さんが素敵な演奏をたっぷり披露してくれました。会場ではテレビ新広島の着物部KIKURA(キモノクラブ)の代表が特別参加し会場の雰囲気華を添えました。

恒例の抽選くじ引き大会では、オーストラリアワインやさまざまな賞品が会場を沸かせ楽しいひと時と

なり、新しく副会長に就任されたマツダの青山裕大理事の中締めをもって懇親会が終了しました。



副会長に就任された青山裕大理事



2011年度収支報告書

(自 2011年6月1日 至 2012年5月31日)

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
前期繰越金	309,523		
会費		活動交流費	
年会費	665,000	総会開催費	589,123
総会会費	295,000	会報発行費	105,000
オーストラリアデー を祝う会会費	345,000	オーストラリアデー を祝う会開催費	578,307
預金利息	71	協会イベント	59,900
		事務費	
		通信費	26,240
		雑費	7,000
		次期繰越金	249,024
合計	1,614,594	合計	1,614,594

以上、監査の結果適正かつ妥当であることを認めます。
平成24年7月5日

広島日豪協会 監事 橋本 英彰
監事 川口 英二

2012年度収支予算(案)

(自 2012年6月1日 至 2013年5月31日)

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
前期繰越金	249,024		
会費		活動交流費	
年会費	700,000	総会開催費	550,000
総会会費	300,000	会報発行費	110,000
オーストラリアデー を祝う会会費	300,000	オーストラリアデー を祝う会開催費	550,000
		事務費	
		通信費	16,000
		消耗品費	20,000
		振込手数料	3,000
		次期繰越金	300,024
合計	1,549,024	合計	1,549,024

広島赤十字・原爆病院への慰問コンサート

広島日豪協会事務局長 今田 善雄

この度、オーストラリアからイザベラ・ア・カペラのメンバーからヅラン・カーノー、ジュージナ・ポラード、ジェシー・マヒュー・クックの頭文字を取ってDGJトリオ3名が来広。以前より平和都市広島での関わりを持ちたい思いがあり、前回、イザベラ・ア・カペラのメンバーは練習を兼ねて平和公園で合唱した際に、日本の大学生の合唱団とエールを交換しあい感動したことを聞いていました。そのような印象もあり、また広島滞在中交流活動を積極的にやりたいという思いを鑑み、今回事務局の方で、広島赤十字・原爆病院の慰問コンサートを計画をしました。私も初めての段取りで、まずは先方に電話をする事に。担当の方は社会課の大橋さんで、てきぱきと必要なことをやりとりし、打ち合わせ日程を決めました。

健康相談室で打ち合わせをしました。おそらく患者さんと先生方との相談をするところであろうと思いつつながら、趣旨、要望等を説明しました。

日程が1月26日(木)15時から30分間と決まり、その後はおのおの準備を進めることに。

当日は、RCCラジオの「レディオ・ワン」の収録が13時からあり、



無事に終え、現地へ到着。2階の喫茶コーナーで簡単な昼食を取り、14時30分に待ち合わせ場所の1階のロビーへ。大橋さんと上内課長とで最終打ち合わせ。急をお願いしたキーボードを準備していただきリハーサルを始める。担当の方も、歌声を聴いて安心されたようです。このようなコンサートは年数回あるそうですが、レベルはさまざま、今回は大変高いレベルだそうです。

15時になり、上内課長から3名の紹介と趣旨を説明していただきよいよ合唱が始まりました。

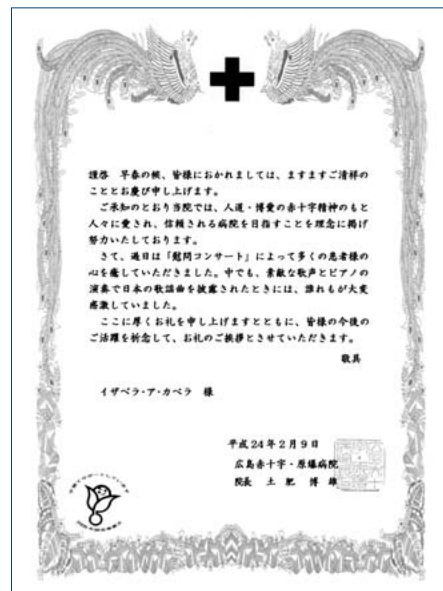
1階ロビー待合室は患者さんやそのご家族の方で大勢が長椅子に座られ素敵な歌声に聞き入っていました。

た。私もロビーの隅にいましたが、患者さんだけではなく医師、看護師、関係者の方もしばし足を止めて聴いておられました。また、ロビーの映像は病室にも配信されており、ベッドでも聴かれていらしたようです。

最後の曲として「上を向いて歩こう」は、それぞれの思いもありロビーは熱狂状態に……。

宴が終わり後片付けをしていると、オーストラリアに住んでいたという母親と娘さんが気さくにトリオに話かけて来られ、オーストラリア談義で盛り上がっていました。

私達は、大橋さん達に見送られ、充実感に満ちた気持ちで広島赤十字・原爆病院を後にしました。



オーストラリア・デーを祝う会

オーストラリア建国記念日の1月26日に「オーストラリア・デーを祝う会」が、ANAクラウンホテルプラザ広島で開催されました。

駐日オーストラリア大使館より、来賓であるピーター・ロバーツ参事官のご挨拶に続きまして松井副会長に乾杯のご発声をいただき、会は始まりました。

オーストラリアからイザベラ・アカペラのメンバーからヅラン・カー

ノー、ジュージナ・ポラード、ジェシー・マヒュー・クックのトリオ3名が素敵な歌声を聞かせてくれました。

今回は、50人を超える会員の皆さんだけでなく、広島経済同友会豪視察団からも十数名参加していただきました。



オーストラリアのラジオを自宅で聴こう！

海外の短波放送を聴く「BCLブーム」が1970年代にありました。オルゴール演奏の「ワルティングマチルダ」とワライカワセミの鳴き声で始まるラジオオーストラリアの放送は、1990年まで日本向け日本語放送もありました。

今や赴任先・旅行先の異国の地で聴いたラジオ放送が今、パソコンで簡単に聴ける時代です。オーストラリアの放送も、国营放送ABCをはじめ民間放送や地域のコミュニティラジオのほとんどが、ネットを通じてリアルタイムで世界へ流されています。

現地でラジオを聴こうとすると、シドニーやメルボルンなどの大都市ではAMもFMもダイヤルの端から端まで、ほぼ隙間なく次々と異なった放送局に出会えます。若者向け音楽専門・ナツメロ専門・ダンス音楽専門・スポーツ中継専門・トーク専

門、さらには、移民者向けのギリシャ語・イタリア語・ベトナム語などの放送局もあります。つまり、聴取者のターゲットを絞った専門局が数多く存在するのです。

ネットの検索窓に、オーストラリア シドニー ラジオ局…などを入れて放送局一覧を探し、そこから各放送局のホームページへ入ります。多くの局のトップページに「Listen Live」というボタンがあり、そこをクリックすると音声が出てきますが、インターネット回線の宿命…実際の放送より数秒から十数秒遅れています。

どのラジオ局も深夜を除いて朝から夜まで生放送が基本で、4時間から5時間を1人から2人のパーソナリティが受け持っています。音楽の合間に入る天気予報では、現在の気温や予想気温などがアナウンスされ季節が逆であることを認識できます。

また、朝夕の交通情報で聞き覚えのある地名が出てくると現地にいるかのように錯覚してしまいます。

手始めに、60～70年代を中心としたシドニーのオールディーズ専門局「EASY1170」、出力の小さなコミュニティラジオながらジャズを専門としているゴールドコーストの「JAZZ Radio」をお勧めします。“日本の秋の夜長”に“春を迎えるオーストラリア”の生放送に耳を傾けてはいかがでしょうか。



’70年代 BCLブームの頃の短波ラジオ

平和の風に白帆を張って… 広島県のヨットレースに豪選手を招待



障がい者が主役のヨットレース「第5回ひろしまピースカップ・国際親善交流大会」が、オーストラリアの招待選手も参加して9月15-16日に広島市で開かれました。



この大会で使用された「アクセスディンギー」という小型ヨットは、老若男女・障がいの有無などを問わずに操作できる「ユニバーサルデザイン」の考えのもと、オーストラリアで考案されました。

レースは、障がい者と障がい者または障がい者とボランティアが2人1組となって観音マリーナの沖合を周回するコースで競われました。初日は微風、2日目は台風16号の影響で強風とにわか雨というあいにくのコンディションでしたが、エントリーした43チーム86人の選手たち

は日頃の練習の成果を発揮すべく懸命に風向きを読みながら帆を操りました。

今回、オーストラリアから参加したのは選手と役員8人で、過去の大会に比べて少数にとどまりましたが、8人はレースや懇親パーティーを通じて日本のセーラーたちと交流を深めました。



ところで、日本国内には障がい者のためのヨットチームが約20団体あります。地元「セイラビリティーヒロシマあびの会」もそのひとつで、国内の大会のみならずシドニーやパースで開催された国際大会にも積極的に遠征しているということで、当ひろしま日豪協会の会報で選手皆さんの活躍ぶりをお伝えできればと願うばかりです。

ニュースダイジェスト

広島県とオーストラリアに関する最近のニュースをピックアップしました。

広がれ 豪GO!



- 5月** 元豪州兵の遺品＝旧日本兵の日記が一昨年、68年ぶりに福山市の遺族に返還されました。これを縁に両遺族の交流が始まり、この度来日した女性が歓迎を受けました。
- 7月** 1950年代に呉に駐留していた豪州軍兵士の娘が、父が撮った500枚以上の当時の写真を呉市に寄贈しました。当時は珍しいカラー写真が大半で、当時の呉市民暮らしが生き生きと写し出された貴重な写真でした。
- 8月** オーストラリアに本部を置く非政府組織「核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)」が広島で国際会議を開催しました。アジアでの開催は初めてで、地元広島の高校生を含む25か国100人が各国の動向や活動を報告しました。

事務局
からのお願い

- ① 寄稿・情報提供：オーストラリアに関する事、何でも結構です。情報をお寄せください。
- ② ホームページ：Eメールどんどんお寄せください。

